

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	衣料品専門店（店員） 家電量販店（地区統括部） 一般レストラン（スタッフ） 住宅販売会社（従業員）	・3月上旬に札幌駅前に衣料店の新規オープンが多数あるので、その相乗効果に期待したい。来客数の増加により売上も向上するのではないと思われる。 ・3か月後はシングル需要が期待されるなど、好材料があることに加えて、当社では50周年を迎えるため、積極的な販促活動に転じる予定であり、十分に需要を喚起できると思われる。 ・単価の下げ止まりがみられる。 ・住宅業界は非常に厳しい閉塞的な状況にあるが、今後の税制改革等に大きな期待をしている。
	変わらない	商店街（代表者） 一般小売店〔酒〕（経営者） 一般小売店〔土産〕（店員） 百貨店（売場主任） 百貨店（売場主任） スーパー（店長） スーパー（企画担当） コンビニ（エリア担当） コンビニ（エリア担当） 衣料品専門店（店長） 家電量販店（経営者） 家電量販店（店長） 乗用車販売店（従業員） 住関連専門店（経営者） 住関連専門店（営業担当） 高級レストラン（スタッフ） 高級レストラン（スタッフ） 観光型ホテル（経営者） 観光型ホテル（スタッフ）	・駅前開発に伴い、これから2か月先はかなり来客数が増えると思われるが、一定の時期に集中するため、自店の立地条件を考えると、その翌月は厳しい状況になると思われる。 ・引き続き客数、客単価が横ばい状態で推移しているため、2、3か月もこのまま続くのではないかとと思われる。 ・客数はそれほど減少していないが、消費マインドが大変低いために購買につながらないと思う。 ・依然として高額商品が売れず、単品で購入する客が多い状況が続いている。 ・春のトレンドを意識した商品が入荷してきており、いつもより早く展開しているが、依然として冬物同様買い控えがある。また入・進学のマザーニーズ対応商品も動きが例年より遅い。 ・大型家電専門店オープン、競合店のリニューアルオープンで客の流出が懸念される。 ・2月は雪まつりの開催を控え、消費活動は停滞する可能性が高いと思われるが、3月には札幌駅前に大手百貨店の進出が予定されており、これが消費の起爆剤となるかどうか注目される。 ・客1人当たりの購入金額が、前年に比べて減少している傾向が続いている。 ・客単価の減少や競合店の動きなどから、販売促進回数が増加しても変化がない。 ・消費税の引き上げなどの消費者に直接関わってくる話題などで買い渋りが進むと思われる。 ・客のふところ具合はかなりきつく、財布のひもは堅い。客単価アップを目指して努力しているが非常に難しく、春になってどういう方向になるかももう少し様子を見たいが、3か月先も今とはさほど変わらないと思われる。 ・3月は新生活需要で多少持ち直すことと、官公庁や一般企業の年度末需要が見込めるが、本来の消費者の購買意欲は高まっていない。また、家電製品にも目玉商品、ヒット商品が特にならない時期である。 ・同業他社をみても日々の動き、客の動きが悪く、良くなる要素は全くない。また、新型車が出て販売の動きが鈍い。 ・今月はバーゲン月だったため、その反動が懸念される。 ・販促媒体を強化して集客化アップを図っているが効果が出ておらず、来客数も前年を下回っている。 ・客単価は今後とも低下すると思われるため、総販売量アップを図る対策を講じるとともに、経費の見直しを行っていかなければならない。 ・3月の予約状況は割とよいが、4月の選挙でディナーの客足が遠のくことが見込まれる。 ・これから、北海道は冬のシーズン真っ盛りになり、雪まつり等のイベントに来道客は増加するが、これらの来道客に対して、余計なものに対する支出は多くは望めない。現在の景気は、春まで続くと思われる。 ・道内向け観光客の増加が期待できるが、一方でアメリカのイラク攻撃の懸念があり、それがどう影響するか判断できず、相殺として変わらないものと思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・冬休みの旅行が一段落し、春先の受注に期待がかかるが、現状から爆発的な勢いは出ないと思われる。
		タクシー運転手	・全く先行きが見通せるような状況ではないので、景気の悪い状況が当分続くと思われる。
		観光名所（役員）	・現状以上の伸びは期待しがたい。
		美容室（経営者）	・来客数、単価ともにほとんど変化がなく、明るい兆しは見えない。
		設計事務所（所長）	・業界全体としての景気を左右するような材料は見当たらない。
		住宅販売会社（従業員）	・今の客層の動きをみると、物価が下落したことを実感する。今後も販売量が伸びない状態が続くと思われる。この状態を脱却するような要素がないため、状況は変わらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・「インフレ」「年金」「雇用」「融資」など身近な問題に不安を感じ生活している現状に加えて、春は統一選挙や決算期があるため、消費は依然としてやや弱めに推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・高単価商品が売れない代わりに、販促商品などの価格の低い商品の動きが顕著になっている。今後、さらにその傾向が強くなると思われる。
		衣料品専門店（店長）	・これから2、3か月後には国政選挙、地方選挙など選挙を多く控えているが、選挙のある年は売上が非常に悪くなるという傾向にあるため心配している。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・風邪、インフルエンザなどプラスの要因を除外すると、まだまだ不安定な動向である。
		一般レストラン（スタッフ）	・不景気の世の中がまだ続き、消費者の目が本当の価値のあるものに向けられるため、外食業界でも勝ち組、負け組の差がはっきりすると思われる。
		旅行代理店（従業員）	・海外旅行や遠距離の国内旅行から、道内の温泉宿泊など、単価の安い商品にシフトしているので、販売額の伸びが全く期待できない。
	悪くなる	旅行代理店（従業員）	・国内旅行、海外旅行とも、先の受注動向に回復の兆しが無い。
百貨店（販売促進担当）		・個人所得の減少により、家庭での需要は本当に必要なものだけを買うため、販売点数、客単価ともに減少の傾向は引き続くと思われる。また、ギフトも所得にあわせて、一戸当りでは点数、金額ともに減少しており、先の見通しは立たない。	
スーパー（店長）		・デフレ継続は間違いないという判断のもと、商品単価はさらに下がり、それにより総合的な客単価の低下につながる。	
スーパー（店長）		・将来に対する生活不安が増大する傾向にあり、消費支出は減少傾向になると思われる。最近の株安、失業率の増加、大手銀行の経営悪化に伴う連鎖倒産の懸念など、消費マインドへのマイナス要因が増加する傾向にあり、政府の大胆な政策への取組がない限り、現状の景況感は改善にならないと思われる。	
コンビニ（エリア担当）		・倒産件数は減少してきているが、依然としてボーナスや給与の減少が続いており、客の収入も減少してきている。収入の減少はしばらく続くと思われ、客の消費行動にも大きく影響してくると思われる。	
スナック（経営者）		・景気が底をついたという話が出ているが、社交場である飲食店街はもっともっと悪くなると思われる。今後、リピーター客が少なくなり、常連客がいなくなれば、当然淘汰されていくこともあり、規模を縮小して営業していくことも考えなければならないと思われる。	
旅行代理店（従業員）		・来客数が減って売上が落ちていることに加えて、近くにある百貨店が8月に閉鎖になるため、人の流れが変わってくると思われる。	
美容室（経営者）	・同業者や商店街の店舗の売上が一様に昨年より悪い状況になっている。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・昨年8月以降の受注量を各月、前年同月対比でみると、下げ止まりから多少上向きに転ずる気配が感じられる。
		建設業（経営者）	・3月から公共工事の発注が始まるため、実需はまだないがマインドは若干良くなる。
		広告代理店（従業員）	・札幌駅南口商業施設の3月初旬の開業に伴い、広告出稿関連が少し動きを見せている。良い意味で、消費動向にもかなり影響が出ると思われる。
変わらない	輸送業（営業担当）	・期待の持てる材料がない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		<p>その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）</p> <p>その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）</p>	<p>・金融機関の金利引上、諸手数料引上などの申し込みがあるとの話しを複数で聞いており、明るい話題がない。</p> <p>・鋼材出荷価格の値戻しが浸透すれば、関連する生産財価格は是正にも反映されることが期待できる。出荷量の増加が見込まれないだけに期待したい。</p>
	やや悪くなる	<p>食料品製造業（団体役員）</p> <p>その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）</p>	<p>・業界企業の当期稼働状況が前年より悪くなっており、従業員の時短稼働や休日対応が起こっているなど、景気の動向はさらに悪い状況に向かっていくと思われる。</p> <p>・今月は前年に比べて良かったが、3か月後の受注量の入りが悪いと、全体として昨年並みではないかと思われる。</p>
	悪くなる	<p>食料品製造業（社員）</p> <p>輸送業（支店長）</p> <p>その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）</p>	<p>・給与の昇給も見通しがなく、さらに一段のリストラが促進され、北海道十勝独特の公共事業の発生減少の傾向など、先行きに対する暗い見通しとなっている。</p> <p>・輸送業界を取り巻くデフレの波は当分おさまりそうもないこと、また新年度に向けた公共工事の見積りや発注に向けた作業も順調に進んでおらず、新年度の第一四半期は企業淘汰を含め、最悪の状態になるのではないかと心配している。</p> <p>・4月以降の案件が全くみえない。取引先や同業他社の話を聞いても同様である。</p>
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	<p>・企業経営者および消費者の心理がここまで冷え込んでいる状況では良くなる見通しが立たない。土木業者を始めとして経営者は2、3月の資金繰りの不安を強く持っており、労働者は倒産の不安を抱えている状況である。</p>
		求人情報誌製作会社（編集者）	<p>・求人が良いのは先月の傾向と変わらないが、短期的な原因であり、3か月先も同じように良いとは思えない。</p>
		求人情報誌製作会社（編集者）	<p>・正社員数が相対的に減少し続けており、臨時採用要素の求人が増える傾向に歯止めがかからない状況である。これらから判断して景気の先行きが見えない状況である。</p>
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	<p>・農業は良いが、その他の業種には明るい話題が少ない。特に土建関係は今後一層、公共工事が削減されることに危機感を抱いているほか、住宅産業も新規着工件数の減少に伴う価格競争で収益を大幅に落としており、信用不安説が流れる企業が多くなっている。</p>
		職業安定所（職員）	<p>・新規求職者の減少は今後もみられず、就職件数は前年と変わりなく推移してくとと思われる。</p>
		職業安定所（職員）	<p>・建設業および関連産業が工事完了により、事業を縮小していることから、雇用需要が見込まれない。また、建設業においては、受注量の減少により、通年雇用していた従業員を解雇する事例が散見された。</p>
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	<p>・今後も求人件数が増加していくと予想されるのは、裾野が広がりつつある医療、介護系だけで、他の業種に関しては明るい材料がほとんどない。</p>
	悪くなる	職業安定所（職員）	<p>・建設業、サービス業を中心に事業主都合の解雇が止まらず、求人倍率も低下傾向にある。</p>